

裸足のギボン

2008(平成20)年3月5日鑑賞<GAGA 試写室>

★★★



特集

監督＝クォン・スギョン／出演＝シン・ヒョンジュン／キム・スミ／イム・ハリョン／キム・ヒョジン／タク・チェフン（リベロ配給／2006年韓国映画／100分）

熱狂的ブームの去った今こそ真価を問う！

……同じ障害者を主人公にした映画でも、1日違いで観た身障者と犯罪をテーマとした『おそいひと』（04年）と、トコトン明るい知的障害者の『裸足のギボン』は大違い！ 実話をモチーフとした泣かせる映画のつくり方は、やっぱり韓流が上……？ ストーリー展開はわかっているけど、また泣かせどころはわかっているけどついハマってしまうが、たまにはそれもいいのでは……？

実話をモチーフとした泣かせる映画

この映画は実話から生まれた泣かせる映画。主人公のギボン（シン・ヒョンジュン）は、80歳の母親キム・ドンスン（キム・スミ）と2人で暮らす、今40歳の男だが、その心や笑顔を見ているとまるで少年のよう。幼い頃に高熱病にかかったため彼の知能は8歳で止まったまらしい。

あまりにも豊かになる中、人間としての生きる道を失いつつあるわが日本国では、理由なき父親殺し、子供殺しが続発しているが、8歳のまま知能の発達が止まったギボンは親孝行の気持だけしか持っていないようで、その点では村1番。

なぜ、彼が「裸足のギボン」と呼ばれているのか……？ それは、わずかばかりのバイト料で村人の仕事を手伝い食べ物をもらおうと、少しでも早くそれを家に持って帰ろうと裸足で走り出すから。なぜ、裸足で……？ それは靴を履くと靴がチビるから……。

こんなギボンとドンスンが住むのは忠清南道瑞山市だが、残念ながらそれがどこにあるのか私にはわからない。この映画のメインとなる、ソウルで開催されるハーフマ

ラソンに参加するのに車でかなりの時間をかけて出かけているから、そこはかなりのド田舎……？ そしてこの映画は、そんな知的障害者のギボンの実話をモチーフとした泣かせる映画。

韓国の身障者映画アレコレ

3月6日に観た柴田剛監督の『おそいひと』（04年）は、重度身障者の犯罪をテーマとしたショッキングな映画だったが、韓国には障害者を主人公とした名作が既に2つある。1つは、ムン・ソリが脳性麻痺の女性を演じた星5つの傑作『オアシス』（02年）（『シネマルーム7』177頁参照）。もう1つは、19歳だが5歳程度の知能しかない自閉症の男の子が走ることの喜びを覚え、フルマラソンに挑戦した映画『マラソン』（05年）（『シネマルーム8』62頁参照）。ムン・ソリは現在『太王四神記』でもヨン様の恋人として大活躍だが、とにかくこの『オアシス』の演技は映画史上に残る名演。しかして、『裸足のギボン』でギボンを演じたシン・ヒョンジュンは……？

私はこの映画でシン・ヒョンジュンをはじめ観たが、知能年齢8歳というギボンの演技方は、『オアシス』のムン・ソリほどではないが、すばらしい。その違いは陰と陽で、この映画におけるギボンの性格はあくまで明るく、思わずドンスンが「人生ってそんなに楽しいかい……？」と問いかけたくなるほどいつも笑っている。そんな役を演ずるのは、ある意味俳優冥利に尽きるかもしれないが、今後の役づくりのイメージという面では、ムン・ソリ同様慎重な配慮が必要だったのでは……？ もっともシン・ヒョンジュンは、私が近々観る予定の『達磨よ、ソウルに行こう』（04年）等で演技派コメディアンとして活躍しているとのことだから、この映画でのギボン役はもってこいの役……？

村長が大活躍！

宮崎県知事の東国原英夫氏は県産品のトップセールスマンとして大活躍中だが、そんな東国原知事を見習って（？）、タレンイ村のペク村長（イム・ハリョン）が目をつけたのがギボンの足。つまり、ソウルで開催されるハーフマラソン大会にギボンを出場させて優勝すれば、一躍タレンイ村の名を国中に知らしめることができるというわけだ。またその副産物として、ギボンは高価なためにとっても手が出なかった入れ歯をドンスンのために買ってあげることができるし、村長は次期選挙も安泰……？

ペク村長によるしごきにも似たギボンのマラソン練習に村人は反発したが、それは、それまでタダ同然でアルバイトさせていたギボンの手がなくなったため……？ 田舎を舞台とした韓国映画が面白いのは、そこらあたりの人情味がストレートにスクリーン上で表現されること。それにしてもいつも思うのは、韓国人の声の大きさ。とりわけ、ペク村長はいつもなぜあんなに怒ったようにしゃべるのだろうと思うほど大声を張り上げているが、これはやはり感情をストレートに表に出す韓国人気質の表れ……？

ギボンの練習についての村人たちの賛否両論と人情論を、ペク村長のバカ息子(?) ヨチャン(タク・チェフン)たちの動きと絡めながらタップリと楽しもう。

マドンナ役は……？

知的障害者のおじさんギボンとその母親ドンスン、そして中年おじさんのペク村長だけがメインでは、映画としてバランスが悪いのは当然。やはり1人はマドンナを登場させなければ……。そう考えた(?) クォン・スギョン監督は、写真の大好きなギボンが現像のために通う写真館で働く若い女性チョンウォンを登場させた。

私がチョンウォンを演ずるキム・ヒョジンをはじめて観たのは、『誰にでも秘密がある』(04年)で、チェ・ジウを中心とした三人姉妹の三女役。ボーカリストとしてカッコいい姿を見せた彼女は、結構印象的(『シネマルーム6』330頁参照)。2度目は、彼女が初出演した『千年湖』(03年)。この映画は『キネマ旬報』ではボロクソの評価だったが、私は星4つをつけた大好きな映画(『シネマルーム8』84頁参照)。

『裸足のギボン』では、このチョンウォンとギボンの間に恋が生まれるわけではなく、チョンウォンはあくまで裸足のギボンの物語を盛り上げていくだけの役だが、クライマックスが近づくにつれて次第にその存在感を高めていくから、要注意！

マラソンに無理は禁物！

私の日曜日毎のフィットネスクラブでの20km走はここ数年ずっと続けているが、それ以前に数回やっていた10kmマラソンでのタイム争いはさすがに中止している。マラソンに無理は禁物なことは当然だが、私のようなA型の人間はややもすればそれを破りそうになるのでご用心……？

ギボンの練習風景を観ながら若干その点が気になっていたが、ある日の練習中突然



© 2006TAEWON ENTERTAINMENT Co.,Ltd

3月8日（土）銀座シネパトス他にて全国順次ロードショー。

提供：ケンメディア、配給：リベロ

ギボンが胸を押さえて苦しそうな表情を示し、結果的に倒れてしまったからビックリ。そこではじめて医者に診察してもらったところ、父親と同じようにギボンには心臓に欠陥があるとのこと。そんな状態で無理矢理ハーフマラソンでの優勝を目指せば、大変なことに。そこでペク村長は、「ハーフマラソンへの参加を中止。練習も中止」と方針を180度転換したが、それを容易に納得しないのがギボン。だってギボンは何とか頑張って優勝し、母親に入れ歯を買ってあげたいと願っていたのだから。それに対して、ペク村長もチョンウォンも入れ歯は私が買ってあげるからと言って、ギボンのハーフマラソンへの参加を中止させようとしたが……。

晴れの大会には、どんな感動が……？

今日はソウルで開催される晴れのハーフマラソン大会。そのコースは、去る2月25日に大統領に就任した李明博がソウル市長時代に見事に高速道路を取っ払ってしまった清溪川に沿った美しいコース。

村民の期待を一身を受けてギボンが臨んだこの大会をペク村長やチョンウォンは要所に陣取って注目していたが、何と折り返し地点ではギボンがトップという情報が

……。ホンマかいな？ と私も思いながら観ていると、ギボンの特徴であるひょうひょうとした腕の振りによる走りは調子良さそう。

ところが、そこで場面は一転し、ギボンの母親の姿が。急に目覚めたドンスンが何を見たのか、息子の異変を感じた彼女は何が何でもマラソン大会を観にいくと行動を起こし始めたから大変。ペク村長の息子ヨチャンは仕方なくこのドンスンをソウルまで車でつれていくことに。

そこで再び場面は一転して力走するギボンの姿だが、どこか様子がヘン。胸を押さえている様子を見ると、ひょっとして心臓が痛むの……？ そう思っていると、給水所で給水をしたギボンがバタリと倒れ込んだから大変。ついにこれで万事休す、と思ったが、ここからが韓流感動ドラマのうまいところ。あの手この手の、そしてこれでもか、これでもかと涙を誘う仕掛けを仕向けてくることになる。

そのままそれに乗ってしまうもよし、あるいは自分なりに抵抗するもよし。とにかくいい映画を観たナと納得することができれば、それでよし……。

2008(平成20)年3月7日記